

# グルーヴ命のスピーカーカー選び

## ヘア30万円以下30機種試聴

佐久間輝夫／細谷信一

ロックをおいしく再生したい。このたった二つのことにこだわってヘア30万円以下のスピーカーカー30機種の試聴を行なった。でも、ロックをおいしく再生する条件って何だろう。その疑問をオーディオ評論家の中でも、「二を争うロック好き、佐久間さんと細谷さんにぶつけてみた。

——ロックがおいしく再生できるスピーカーの条件というのは何だと思えますか？

佐久間 本当はロックに限った話じゃないんだけど、僕がスピーカーに要求するのは音楽のグルーヴをきちんと出すこと。

細谷 それと、楽器や声の音色をきちんと出すこと。単純だけど、この2つの要素をきちんと再現できれば、ロックをおいしく再生できると思っただけです。

佐久間 僕もそう思う。それでね、「ロック向き」というのは本当にはないんだけど、昔からよく、「ロック向き」という評価があったんです。でも、その評価の裏には、クラシック音楽の再生に満足に出来ないスピーカー、というのがあったのも事実だと思っ

細谷 さわがしい音があるスピーカーをすべて「ロック向き」と呼んでいたことね。これってとんでもないことだよ。

佐久間 で、そのへんを今日、きちんと定義してから試聴を行なおうかと思っ

といてもいい。これがロックだと相当な部分のウエイトを占めると思う。これが上手く出てこないで、演奏している側の意図が伝わらなくなってしまう。言葉にするのが難しいんだけど、例えばドラムってタイムキープするわけですよ。単純にタイムキープするだけだったら、リズムマシンの方が正確だし、狂わない。でも、人間ノックしてくればだんだん速くなるし、ライヴなんかでどんどん速くなるよな。



つてくれると思う。

佐久間 このグルーヴを上手く再現できるスピーカー。こういうスピーカーを今回は選んでみた。

——具体的にグルーヴを出す方法とか、方式というのはあるんですか？

佐久間 それが解つたら苦労しないよ(笑)。細谷 単純だけど、やっぱりエネルギーバランスかな。例えばバランスが高域寄りだと速く聴こえて、低域寄りだとゆっくり聴こえる、というのがあると思うんだ。それが何処に

瞬間発力。アタックの時のエネルギーがどこに集中しているのか、そういうことで随分印象が違ってくる。もちろんスピーカー単体では音は出ないから、駆動するアンプなり、その前のソース機器との組合せが関係するのはいうまでもないけれど。

佐久間 ただ、グルーヴを出す方程式なんてどこにもないんだ。だからこゝ聴いてみないとわからない。

細谷 本場にそう。低音のスピード感を高めるためにウーファーを小さいユニットにしてあるスピーカーがあるじゃない。でも、全部が全部、速いわげじゃないんだ。逆に大口徑ユニットを使っているスピーカーでも速く感じるのがあるわけ。

佐久間 そう、それで何で速いのが欲しいかと言つと、ようするに楽器らしさが欲しいわけ。楽器って、元々最小限の力で、最大限の効果を得るように出来てるじゃない。僕はスピーカーもそうあって欲しいんだ。これは反

応がいいとも言っただけ。

細谷 そうだね。それは僕も同じ。そしてこれが、もう一つのポイントとなる「楽器の音色」を正しくということになつてくる。反応が悪いと音がロスしてきちんとした音色を再現してくれない。まあ、正しくなくてもいいけど、カッコよく再現して欲しいんだ。演奏する側って、凄いいだわりをもって音を出しているわけ。こういう楽器を使って、この位置にマイク立てて、そしてこういうフレーズをこゝういう気持ちで込めて奏でる、とかね。

佐久間 本場にそのとおり。

最近、ジェフ・ベックの「ワイアード」の中の「グッバイ・ポーク・パイ・ハット」という曲を聴き直していたらね、フレーズでギターの音が違うの。どう聴いても同じギターではなくて、レスポールとストラトキヤスターなんだよ。ジェフ・ベックって近年はストラトキヤスターをメインに使っているし、もしくはテレキヤスターというイメージが強いでしょ。だから、何でレスポールなんだろう？

って考えたわけ。どうしてこの曲には2つの音色が必要だったんだらうって。こういうことって、もしかしたら余計な事かもしれないけど、それが解れば、より深く音楽に入り込めると思うんだ。だから、こういう事に気が付くのは、音色がわかりやすいスピーカーじゃないと無理だと思う。それに、僕がミュージシャンだったら、こういうところまで聴いてくれたらうれしいじゃない。

細谷 そうだよな。どうせ聴くなら、そういうことがわかるスピーカーで聴きたいよね。

### テスト方法

#### Part.1

まず、対象となるヘア30万以下のスピーカーを編集部でリストアップ。その後、編集部、佐久間氏、細谷氏の3者によって30機種に厳選した。試聴は3日間に分けて、2人同時に行ない、リファレンス機器はスピーカーとの価格やバランスを考慮し、現行モデルから編集部で選択した。なお、アクティブタイプのスピーカーは、CDプレーヤーのラインアウトからダイレクトで接続して試聴を行なった。試聴ソフトは、編集部の「ロックのグルーヴ」と「楽器の音色」にこだわったものというリクエストによって、各筆者2枚のディスクを用意していた。また、試聴後、それぞれにお薦めのスピーカーを「特選」として2モデル、「推薦」として6モデル選定していただいた。

#### Part.2

ここでは、より楽器の音色にこだわった試聴を行なった。こだわったのは、ロックの要ともいえるエレキギターの音。その中でもギブソン社のレスポール、フェンダー社のストラトキヤスターにスポットをあてた。試聴は、佐久間氏、細谷氏に加え、これらの楽器の専門家であるヴィンテージ楽器店の方をゲストに招いて行ない、レスポール編を佐久間氏とゲストの岸田邦夫氏、ストラトキヤスター編を細谷氏とゲストの波多野光男氏に担当していただいた。対象にしたスピーカーは、Part.1で特選／推薦に選ばれたモデルの中から、佐久間氏、細谷氏によって、さらにそれぞれ4機種に厳選されたモデル。試聴ソースの用意はゲストの方をお願いした。

### リファレンス機器

- Part.1
- CDプレーヤー:デノン DCD-S10Ⅲ ¥250,000
- プリメインアンプ:デノン PMA-S10Ⅲ ¥280,000

### 試聴ディスク&試聴ポイント

#### Part.1



文中表記 ツェッペリン

**IV / レッド・ツェッペリン**  
(アトランティック WPCR11614)  
「ロックン・ロール」  
このディスクを使った理由はロックのグルーヴが出るかどうか。このバンド全体の疾走感ともいべきグルーヴ、これが上手く再現できれば後はよし。同時にジミー・ヘイズの弾くレスポールの音もポイント。ロックのアンサンブルのテストには最適。(佐久間)



文中表記 クラプトン

**ワン・モア・カー、ワン・モア・ライダー / エリック・クラプトン**  
(ワーナー WPCR11400)  
「いとしのレイラ」  
曲の出だしでクラプトンの弾くストラト単独の音が聴くことができる。そして、ライヴならではのバンドのグルーヴ。クラプトンを含め、3人の奏者によって弾かれる3本のストラトの音色の違い、このあたりも聴き所。(細谷)



文中表記 G・ムーア

**バック・トゥ・ザ・ブルース / ゲイリー・ムーア**  
(ビクター VICP61331)  
「プロフィット」  
このディスクは単純にレスポールのトーンを聴くためのもの。やや歪ませすぎの感はあるが、現代の技術によって、スタジオでちゃんと録音されたハイファイ的にも優秀な音。この味がどれだけ再現できるかがポイント。(佐久間)



文中表記 ジミヘン

**アルバート・ホール・エクスペリエンス / ジミ・ヘンドリックス**  
(ビクター VICP61686)  
「リトル・ウィング」  
ジミヘンのストラトの音、そして冒頭、ギターアンプの音圧によってスネアのスナッピーが鳴る音。バンド経験者なら、誰でも知っているこの音が、どれだけリアルに聴こえるか、ライヴ盤ならではの空間イメージが再現できるかがポイント。(細谷)